

事業名：栽培漁業研究事業
 細事業名：貝類付加価値向上対策事業
 期間：令和4～6年度
 予算額：1,062千円
 担当：福本一彦

目的

県産クロアワビのブランド化に必要な基礎データの収集を行う。また、資源回復及び栽培漁業の効果検証のため、混獲率の把握等を行う。

材料及び方法

1 県産クロアワビのブランド化に向けたデータ収集

中山地区では殻長11cm以上の個体のみを厳選し「大山黒あわび」としてブランド化を図る取り組みが進められている。大山黒あわびの訴求点を見出すために、肥満度（殻付き湿重量(g) / (殻長×殻長×殻長(mm)) × 1,000）を求め、県内他地区と比較した。

また、クロアワビの生息環境として湧水を訴求の1つとするため、中山地先においてラドン222の測定及び湧水調査を2022年9月及び10月に行った（図1）。

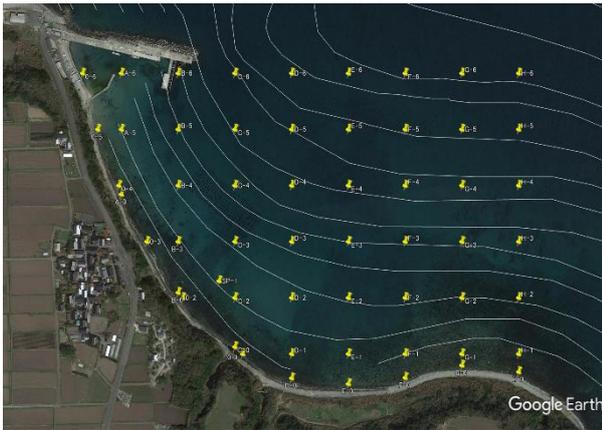


図1 調査地点

2 混獲率調査

県産アワビの漁獲量が減少していることから、基礎情報を得るために賀露市場、赤碕市場、御来屋、中山において出荷されたクロアワビ及びメガイアワビの混獲率を2022年4月～2023年3月に調査した。混獲率は放流由来個体数 / 調査個体数 × 100により求めた。放流個体か否かはグリーンマークの有無により判別した。

結果及び考察

1 県産クロアワビのブランド化に向けたデータ収集

(1) 肥満度

大山黒あわびが採集される中山地区、及び隣接する御来屋地区、赤碕地区、並びに泊～東までの県中東部各地区

の肥満度を図2に示した。

大山産と県内他産地の値についてみると、12月、3月は大山産がやや高いが、その他の月では産地間に大差は認められなかった。本県産クロアワビは5～6月に肥満度が高くなる傾向が認められた。

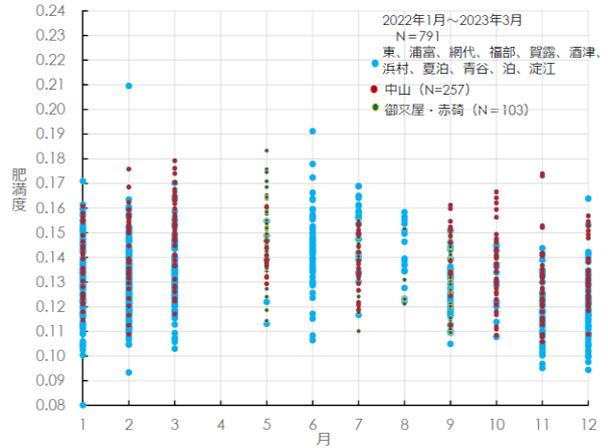


図2 県産クロアワビの月別肥満度（2022～2023年）

(2) 湧水調査

ラドン222の測定結果を図3に、潜水による湧水噴出の状況を図4にそれぞれ示した。

ラドン222は、海底湧水が目視確認された地点で高い値を示した。

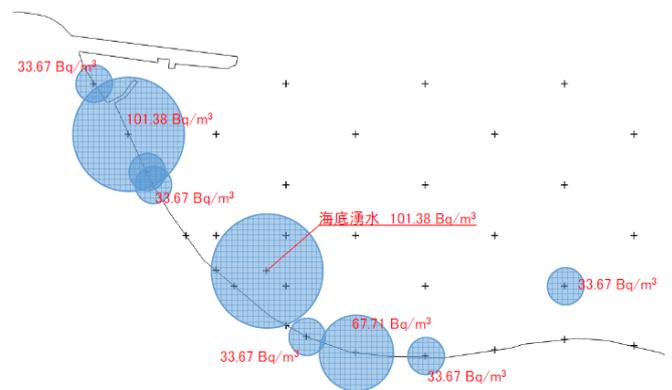


図3 ラドン222測定結果



図4 海底湧水（左：御崎海岸，右：御崎漁港内）

2 混獲率調査

2022年4月～2023年3月の地区別のクロアワビ及びメガイアワビの混獲率を表1に示した。

本県におけるクロアワビの混獲率は33%（地区別範囲19～50%）であった。一方、メガイアワビの混獲率は0%であった。メガイアワビは2012年以降本県での種苗放流は行われておらず、それを裏付けるものであった。

成果の活用：

「大山黒あわび」のブランド化に取り組んでいる鳥取県漁協中山支所へ結果報告を行った。

関連資料・報告書： 該当なし

表1 令和4年度鳥取県産クロアワビ及びメガイアワビ混獲率

種	地区	調査個体数 (a)	放流由来個体数 (b)	混獲率 (%) (b/a×100)
クロアワビ	東	29	12	41
	浦富	25	7	28
	網代	30	15	50
	福部	21	4	19
	賀露	118	46	39
	酒津	119	35	29
	浜村	170	60	35
	夏泊	95	22	23
	青谷	151	51	34
	泊	89	31	35
	赤碕	57	12	21
	中山	262	94	36
	御来屋	66	16	24
	合計		1,232	405
メガイアワビ	東	-	-	-
	浦富	1	0	0
	網代	1	0	0
	福部	-	-	-
	賀露	3	0	0
	酒津	2	0	0
	浜村	-	-	-
	夏泊	7	-	-
	青谷	2	-	-
	泊	-	-	-
	赤碕	1	0	0
	中山	8	0	0
	御来屋	15	0	0
	合計		40	0